観光パンフレットにみる地域鉄道を基軸とした沿線市町村の連携

奥山研究室　19B50583　佐藤　晃太　(SATO, Kota)

1. 序　近年、市町村各地の魅力の向上を目的とした複数地域の連携による観光地形成が活発化している[1)]。地域鉄道は、沿線に点在する観光地間の移動手段として、さらにイベント列車や歴史的な駅舎など観光資源としての性格を有することから、地域の連携の基軸となる可能性を潜在している。そこで本研究では、地域鉄道の沿線市町村の観光パンフレット[2)]を対象に、言語表現と地図表現を検討することで、地域鉄道を基軸とした沿線市町村の連携のイメージを明らかにすることを目的とする。

2. 言語表現にみる地域鉄道の着目内容と連携形式

2-1. 着目内容の分類　まず、対象とした地域鉄道の沿線市町村の観光パンフレットから、地域鉄道を紹介する言語表現（以下、鉄道紹介）を抽出し、鉄道紹介文に提示される地域の魅力を着目内容として検討した（図 2)。まず沿線地域の観光要素を紹介する《沿線紹介》と、地域鉄道自体を観光要素として紹介する《鉄道紹介》に大別でき、前者は〈自然景観〉〈周辺施設〉〈地域情報〉、後者は〈鉄道施設〉〈サービス・活動〉〈路線情報〉から捉えた（図 2)。

2-2. 連携表現の分類と形式　上記の着目内容には、例えば図1の分析例の筑西市の鉄道紹介文で、沿線の茂木町の駅舎が紹介されるように、他地域との連携として読み取れるものがみられたため、これを連携表現として検討した。連携表現には、他地域が紹介される［越境］、複数の地域で同じ着目内容が紹介される［共有］がみられた（図 3)。

以上の連携表現について地域鉄道単位の組み合わせを連携形式として検討した。［越境］がみられる場合は、他から紹介される地域（以下、被越境地域）の沿線における分布から、【広域越境型】と【局地越境型】に分類し、［越境］がみられない場合は［共有］の有無から、前者を【共有型】、後者を【非連携型】に分類した（図 4)。

3. 地図表現にみる連携表現の強調

次に、観光パンフレットの地図表現に着目すると、鉄道の路線や観光要素が周辺の他地域まで描かれるものみられ、これを域外表現として捉えた（図 5)。さらに域外表現で描かれる地域が前章で捉えた連携表現の対象となる場合、これを強調表現として捉えた（図 6)。

図1. 分析例

《沿線紹介》 :151 (50)		
自然景観〈Na〉	緑地・山 Gr	18(15)
	森林 9 山 7 地形 2	
	海・河川 Wa	20(18)
	海 9 河川 8 渓谷 3	
	田園風景 Ru	6(0)
	田園風景 6	
周辺施設〈Fa〉	公共空間 Pu	36(5)
	公園 8　ジオパーク 10 街並 10…	
	建物 Ar	38(8)
	寺社 10　歴史的 8　店舗 7…	
	構築物 Cn	17(0)
	モニュメント 4 タワー 1 橋 1…	
地域情報〈Re〉	文化 Cu	16(4)
	ロケ地 8 祭り 1 特産品 5　資材 2	

凡例
駅舎 St → 略称
54 (6) → 全紹介数（連携内容）

《鉄道紹介》 :192 (39)		
鉄道施設〈Tr〉	駅舎 St	54(6)
	駅舎 48 駅構内 4 路線図 2	
	橋梁など Br	11(1)
	橋梁 5 転車台 3 防雪設備 2 …	
	車両 Tc	17(8)
	SL7 路面電車 2 レトロ車両 2…	
サービス・活動〈Se〉	イベント Ev	28(12)
	イベント列車 23 運転体験 2…	
	移動体験 Mo	16(5)
	車内活動 9　雰囲気 7…	
	販売物 Gs	11(5)
	グッズ 6 切符 4 アプリ 1	
路線情報〈Ro〉	独自性 Or	21(2)
	沿革 9 愛称 5 称号・希少性 7	
	利便性 Co	34(0)
	乗り換え 11 ターミナル駅 23	

図 2. 鉄道紹介文における着目内容の分類

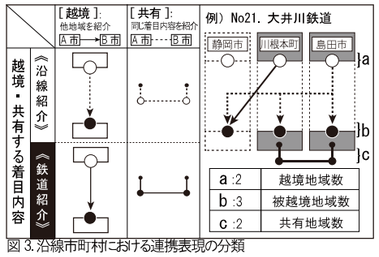

図 3. 沿線市町村における連携表現の分類

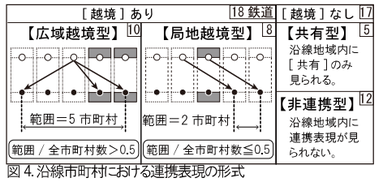

図 4. 沿線市町村における連携表現の形式

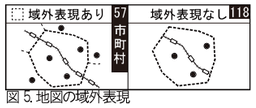

図 5. 地図の域外表現

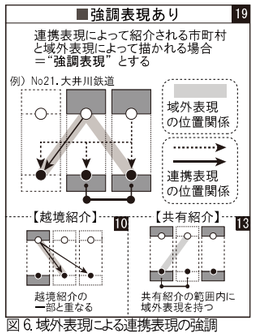

図 6. 域外表現による連携表現の強調

4. 言語表現と地図表現にみる沿線市町村の連携

地域鉄道を基軸とした沿線市町村の連携について、2 章で整理した着目内容の鉄道単位での組み合わせを、《沿線紹介》の比率が高い順に並べ、これらと連携形式との対応から、全資料を A-1、A-2、B、C、D に位置付けた（図 7)。以下では地図表現と合わせて、それぞれの特徴を考察する。【広域越境型】で、沿線紹介を基調とする地域を A-1 とし、鉄道紹介を基調とする地域を A-2 とした。

A-1 では［共有］する観光要素が少なく、独自の内容として〈周辺施設〉が［越境］されていた。越境地域が単数の場合、知名度の高い観光地から〈周辺施設〉によって広域で［越境］することにより、周遊観光を促すような連携がされていると考えられる。具体例として越境地域には、No.16 北陸鉄道の金沢市や No.20 伊豆箱根鉄道の三島市が挙げられる。また No.4 三陸鉄道では、著名なドラマの舞台という地域の文化を［共有］する連携もみられた。

A-2 では《鉄道紹介》の［越境］が多くみられ、列車や駅舎、運転体験や車内体験など鉄道に関する幅広い内容が特定のコンテンツに関連させられ、沿線全域に連携されている。具体例として No.11 わたらせ渓谷鉄道では渓谷関連のトロッコ列車や駅舎、No.8 真岡鉄道では SL 列車関連の駅舎や転車台が挙げられる。

【局地越境型】では［越境］で〈移動体験〉が特徴的に多くみられ、〈自然景観〉も多くみられた。近隣の中心的都市が被越境地域となっており、移動や地理的な接続により都市への連携を強めていると考えられる。中心的都市の具体例として No1. 道南いさりび鉄道の函館市や、No.2 弘南鉄道の弘前市などが挙げられる。

【共有型】では〈自然景観〉〈サービス活動〉、特に車両・イベントの［共有］が多くみられ、地域の自然環境を生かしながら観光列車などを複数市町村間で共有して紹介をし、集客力の向上を共同的に図っていると考えられる。具体例として No.13 えちごトキめき鉄道では豊かな自然を走るイベント列車「雪月花」が全域で［共有］されている。

【非連携型】では《沿線紹介》より《鉄道紹介》を基調とする沿線地域の総数が多く、着目内容に〈路線情報〉が多くみられた。このことから連携のみられない地域では移動手段としての機能が紹介されていると確認できる。

5. 結　以上、観光パンフレットの言語表現と地図表現から地域鉄道を基軸とした沿線市町村の連携を検討した。その結果、沿線地域内にヒエラルキーがある中で既存の資源を越境的に紹介するもの、沿線地域内にヒエラルキーがない中で観光列車などを共有することにより地域に新たな価値を付加するものという 2 つの連携のイメージを捉えた。

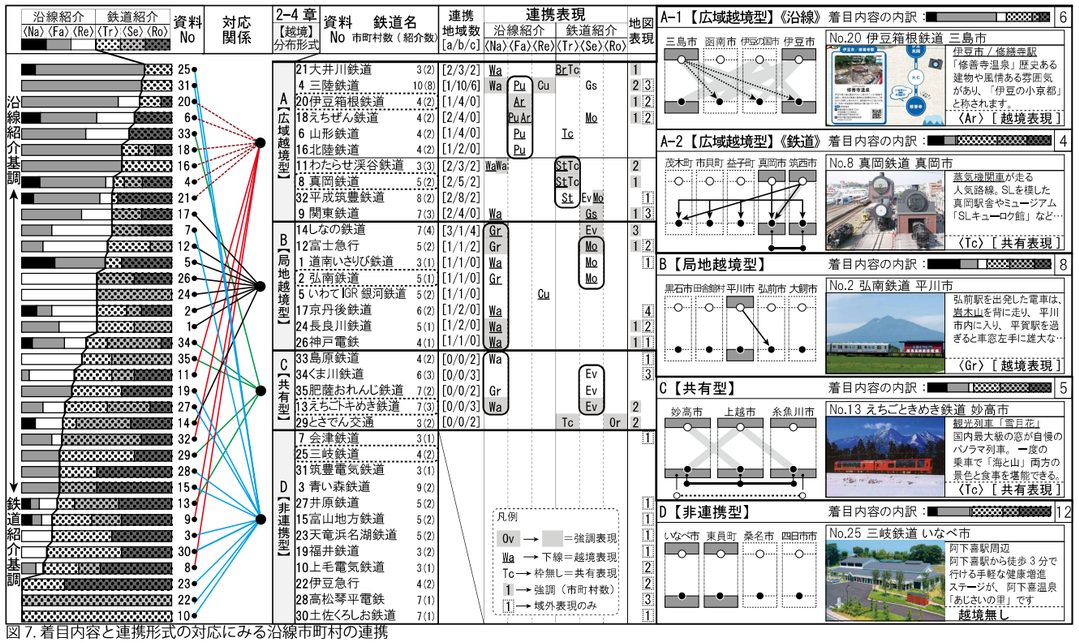

図 7. 着目内容と連携形式の対応にみる沿線市町村の連携

註 1) 自然、歴史、文化等で密接な関係にある地域を一帯的に整備する観光圏整備法が挙げられる。
2) 中小民鉄及び第三セクターを合わせた 95 の地域鉄道のうち、沿線に 3 以上の市町村を含む鉄道を対象とした。そのうち、72 地域の観光パンフレットで地域鉄道の紹介がみられ、これを 2 章の資料とした。

参考文献　桑原萌　他：観光パンフレットにみる地域鉄道沿線空間のイメージ形成の枠組み
日本建築学会大会学術梗概集 , p415 ～ 416,　2018.7